

東海林勤前総幹事を偲んで

2020年8月25日火曜日の午前11時、東海林勤牧師がご自宅で88年の生涯を閉じられました。ここ数ヶ月入院を繰り返しておられましたが、最後の一週間をご自宅でご家族と共に過ごすことができました。先生はその生涯を主に仕えるために捧げられ、抑圧された者のために働き、差別と闘い、そして主イエスが私たちの済む会で「最もちいさいもの」と呼ばれた人々の人権を支えられました。

東海林勤牧師は1932年に神奈川県に生まれ、早稲田大学を卒業後、東京神学大学とニューヨークのユニオン神学校で学ばれました。日本基督教団の牧師として牧会に従事され、2003年に引退教師となりました。その間1978年から85年まで日本キリスト教協議会(NCC)の総幹事を務められました。

NCCの総幹事であられた1980年代、東海林先生は韓国基督教教会協議会(NCCK)との絆を深められ、NCCとNCCKは韓国の民主化と朝鮮半島の統一のために共闘しました。先生はNCCが東アジアの正義と平和の問題に深く関わることに尽力されました。さらに、1984年に世界教会協議会が開催した歴史的出来事である「東北アジアの平和と正義に関する東山荘会議」を準備し、ホストしたリーダーの一人でした。洞察力にあふれ、東山荘会議が韓国の南北統一と東北アジアの平和に大きく資することを予見しておられたのです。この会議を成功させるべく会議運営に必要な支援を提供すると共に、このユニークで画期的な会議に参加する日本側の参加者の人選にも関わられました。東山荘会議は後に「東山荘プロセス」と呼ばれることとなりますが、朝鮮半島に最も息の長いエキュメニカルな取り組みの端緒をつけることとなったのです。WCCは去る6月22日に「市民による和平条約」を宣言発表して、この会議を記念する時を持ちましたが、それが何よりの証拠と言えます。

他の日本や国際的なエキュメニカル運動に関する貢献を上げるならば、東海林先生はNCCの平和核問題委員会に長く奉仕されました。また東京にある高麗博物館の初代理事長でもありました。紳士的で穏やかな物腰の中に、強い信念を秘めた方でした。日本の教会がアジアの現状にもっと目を向け、そして平和のために取り組むよう、強く働きかけられました。東海林先生はエキュメニカル運動の優れた指導者としての多くの記憶にとどめられることでしょう。先生を失ったことはまことに残念でなりません。

東海林先生の生涯とその業績のゆえに、神に感謝を捧げます。先生の存在は日本の教会はもとより、世界の神のエキュメニカルな家族にとっての祝福でした。わたくし個人にとりましても、東海林先生と共に働く機会を与えられたことはまことに光栄なことでありました。どうか先生が永久の平和のうちに憩われますように。(ご遺族は3人のお嬢様です。)

山本俊正

日本キリスト教協議会 元総幹事

この追悼文はWCCとNCCの依頼により英文で書かれたものを翻訳しました。